

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク

次期開催地挨拶



島根県松江市 産業経済部長 能海広明

改めましてこんにちは。

島根県の松江市から来ました、産業経済部長をしております能海と申します。まずもって輪島市での総会の開催、おめでとうございます。また次回、平成22年度の開催地を松江市にご決定いただきましてありがとうございました。北前船の寄港、この能登半島の寄港地であります輪島市さんから島根半島の寄港地で行った美保関の所在地でございます松江市に引き継いでいただきますことは、日本海にぎわい・交流海道ネットワークそのもののような感じがしているところでございます。

松江市について少し紹介をさせていただきますと、平成17年に旧松江市と周辺の7町村が合併いたしまして、人口約20万の新しい新松江市が誕生したところでございますけれども、市街地の西にはシジミで有名な宍道湖が広がっておりまして、また江戸時代から現存する天守閣がある城が今全国で12ございますけれども、その一つであります史跡、松江城が市の中心部にございまして、奈良、そして京都とともに国際文化観光都市となっているところでございます。

昨年の9月から今年の3月まで、NHKの朝の連続テレビ小説「だんだん」の舞台にもなったところでございまして、この「だんだん」というのは出雲地方の方言で、ありがとうという意味でございます。そういう面でも先ほど決定いただきましたことは、本当にだんだんということでございます。放送を通じまして松江の町も全国に発信することができたところでございます。

先ほど申し上げました松江城が築城を開始いたしましたのは今から約400年前の1607年でございます。完成したのが1611年でございますことから、2007年（平成19年）から2011年（平成23年）までの5カ年間を松江開府400年祭と銘打ってさまざまなイベントを実施しているところでございまして、今年の5月には日本三大船神事の一つでございますホーランエンヤを開催いたしまして、全国各地から約36万人の観光客の皆さんをお迎えしたところでございます。来年も400年祭の期間中でありますので、松江の町を大いに楽しんでいただけるものと歓迎を申し上げる次第でございます。

さて、松江市の港湾事情について申し上げますと、旧松江市時代は、県管理港湾の松江港と1カ所の市管理港湾のみでございました。しかしながら、平成17年の合併によりまして日本海側の3つの町と、それから中海という湖がございますが、そこに浮かびます日本一の牡丹の生産地でございます八束町が松江市となりまして、現在では重要港湾であります境港のほか、県管理港湾2港、市管理港湾16港及び56条港湾の8港、計26港を有しておるところでございます。そのうちの重要港湾であります境港は主に鳥取県側にあるわけでございますけれども、島根県側の松江市にも港湾機能を有しております、港を管理します境港管理組合の一員になっているところでございます。また、境港FAZ地域の区域にもなっております、境港貿易振興会にも加盟をしているところでございます。

現在、上海、大連、それから天津を結びます中国航路と、釜山を結びます韓国航路の2つの定期コンテナ航路が就航しておりまして、また本年度6月には境港と韓国の東海、そしてロシアのウラジオストクを結びます定期フェリーのDBSクルーズフェリーが就航いたしましたところございまして、これらの航路を活用いたしまして貿易振興に力を入れているところでございますが、特に、松江市では特産物であります牡丹を、アメリカ、ヨーロッパを中心にいたしまして年間四十数万本の輸出をしているところでございますけれども、このフェリーを利用いたしまして、ロシアへの輸出も今検討しているところでございます。

このように、本市の日本海航路を活用した取り組みのさらなる展開の時期となる来年度に、このネットワーク総会を開催できますことは大変意義深いと思っておりますところございまして、素晴らしい大会になりますよう努力をしまいたいと思っております。皆様方のお越しを心からお待ちしております、次期開催地としてのご挨拶といたします。だんだん、ありがとうございました。